

インフォシスと ServiceNow、サービスデリバリーの革新に向け AI 協業を拡大

Infosys ESM Café と共同で企業のデジタル変革を加速

インド、ベンガルール - 2024 年 8 月 1 日 : 次世代デジタルサービスおよびコンサルティングのグローバルリーダーである [インフォシス](#) (NSE、BSE、NYSE : INFY) は本日、[ServiceNow](#) との戦略的協業を拡大し、[Now Platform](#) の AI 機能と [Infosys Enterprise Service Management Café \(ESM Café\)](#) を活用したエンドツーエンドのマネージドサービスを提供することで、企業のビジネス変革を実現することを発表しました。

この契約の一環として、インフォシスは [ファースト・アブタ銀行 \(FAB\)](#) のような企業向けに ServiceNow の実装を 30~40% 加速し、価値実現までの時間を短縮することを目指すとともに、包括的なサービスおよびソリューション一式を提供します。Infosys ESM Café は、AI を活用したプラグアンドプレイ・ソリューションで、企業のクラウド・ジャーニーを加速するためのサービス、ソリューション、プラットフォームのセットである [Infosys Cobalt](#) の一部です。Infosys ESM Café は、AI や持続可能なデジタルソリューションを含む様々なモジュールと ServiceNow の機能をカバーする 70 以上のアプリケーションを提供します。

ServiceNow の欧州・中東・アフリカ担当プレジデントの Cathy Mauzaize 氏 は「インフォシスが FAB のような世界的に有名な金融機関のビジネス変革に当社の AI プラットフォームを活用していることを大変嬉しく思います。この協業は、サービス提供に革命をもたらし、業務効率を改善する当社のプラットフォームの力を示すものです。これは、インフォシスが洗練されたデジタルトランスフォーメーションを推進し、当社のプラットフォームを通じて顧客に卓越した価値を提供し続ける中で、当社とインフォシスとのコラボレーションが成功した新たなマイルストーンです」と述べています。

インフォシスの EMEA クラウド・インフラ・セキュリティサービス担当 EVP 兼ヘッドであるウマシャンカル・ラクシュミバシー は「ServiceNow と協業し、ServiceNow プラットフォームを活用した包括的なマネージド・サービスで企業をサポートできることをうれしく思います。インフォシスは、ServiceNow との長年にわたる協力関係と、ServiceNow のプラットフォームに関する深い専門知識を Infosys ESM Café と組み合わせることで、FAB のような企業が企業全体で効率性、生産性、継続的なサービス改善を推進できるようになります。このコラボレーションの成果は、最先端の AI 機能がいかに変革的なソリューションを生み出し、お客様に具体的なビジネス価値をもたらすかを示しています」と述べています。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーです。30万人を超える社員が、人間の可能性を増幅させ、人々、企業、地域社会に次の機会を創出するために働いています。インフォシスは、56カ国以上のお客様のデジタルトランスフォーメーションを支援しています。40年以上にわたってグローバル企業のシステムと業務を管理してきた経験を生かし、クラウドとAIを活用したデジタルトランスフォーメーションを推進するクライアントの舵取りを専門的にを行います。私たちは、AIファーストのコアでクライアントを支援し、アジャイル・デジタル・アット・スケールでビジネスを強化し、イノベーション・エコシステムからのデジタル・スキル、専門知識、アイデアの移転を通じて、常時オン・ラーニングで継続的な改善を推進します。私たちは、多様な才能が包括的な職場で活躍する、ガバナンスが行き届き、環境的に持続可能な組織であることに深くコミットしています。

インフォシス (NSE、BSE、NYSE: INFY) がどのように御社の次のナビゲーションをお手伝いできるかは、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー

本リリースに記載されている当社の将来的な成長見通し、または将来の財務・業績に関する記述は、1995年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) に基づく「セーフ・ハーバー (免責条項)」の適用を受けることを目的とした将来見通しに関する記述であり、実際の結果や業績がかかる将来見通しに関する記述と大きく異なる可能性のある多くのリスクや不確実性を伴います。これらの記述に関連するリスクと不確実性には、当社の事業戦略の実行、人材の獲得と維持能力、ハイブリッド・ワークモデルへの移行、経済の不確実性、ジェネレーティブ AI などの技術革新、移民規制の変更を含む複雑で進化する規制環境、当社の ESG ビジョン、当社の資本配分方針、当社の市場での地位、将来の事業、利益率、収益性、流動性、資本資源、買収を含む企業行動、サイバーセキュリティに関する期待に関するリスクと不確実性が含まれますが、これらに限定されるものではありません。将来の見通しに関する記述によって示唆されるものとは異なる実際の結果や成果をもたらす可能性のある重要な要因については、2023年3月31日に終了する会計年度の年次報告書 (Form 20-F) を含む、当社の米国証券取引委員会への提出書類で詳しく説明されています。これらの提出書類は、www.sec.gov。インフォシスは、証券取引委員会への提出書類や株主への報告書に含まれる記述を含め、書面および口頭による将来の見通しに関する記述を随時追加する可能性があります。当社は、法律で義務付けられている場合を除き、当社によって、または当社を代表して随時行われる将来見通しに関する記述を更新する義務を負いません。

お問い合わせ先：

インフォシス 東京オフィス 安藤

Email : jo_ando@infosys.com